東大阪

発行所
株式会社 東大阪新聞社
第7000号
〒577-0802
東大阪市小阪本町 1-1-7
エフエスビル２Ｆ
TEL 06-6720-4601
FAX 06-6720-4603

八尾柏原支社
〒581-0013
八尾市山本町南 6-2-29
TEL 072-926-5134
FAX 072-921-6893

東大阪・八尾
柏原の地域紙
購読ご希望の方はお気軽にお電話下さい

お客様の明日の競争力を支えるものづくり

富士電子工業株式会社

創立60周年記念感謝の集い

熱処理加工および応用電子機器製造のリーディングカンパニーである富士電子工業株式会社（渡邊弘子社長、八尾市老原6―71）が60周年を迎え、9月30日にリーガロイヤルホテル（大阪市北区中之島5）で創立60周年記念感謝の集いを開催した。当初は6月19日に開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防のため延期され、この日となった。

お礼を述べる渡邊弘子社長

松桂右八尾市長、森雅彦DMG森精機株式会社社長がそれぞれ祝辞を述べた。

その後、鏡開きが行われた。約200人の参加者は和やかな雰囲気のなか、同社の60周年を祝った。

この日の午後1時からは八尾本社工場の見学会が開かれた。最新の設備はもとより、ムスリムのための祈祷室が設けられており、世界に開かれた同社の精神が如実に表れていた。

「お客様の明日の競争力を支えるものづくり」というポリシーによって成長し続ける富士電子工業株式会社は、まさに日本の発展になくてはならない存在だ。

講演する長谷川榮一氏

午後4時から記念講演会が開かれ、前内閣総理大臣補佐官兼広報官の長谷川榮一氏（68）が「人生4勝3敗」と題して話した。紆余曲折の道のりを振り返りながら、「負けで終わらせてしまうと、そこですべて終わってしまう。悲嘆に暮れるのではなく、もう一踏ん張りすることが肝心」と力説した。長谷川氏は安倍晋三前首相と渡邊社長を引き合わせた人物。タタールスタン視察のエピソードを例に挙げ、渡邊社長の好奇心と行動力を讃えた。

午後5時からは部屋を替えて祝賀会が開かれた。長尾敬衆議院議員、松川るい参議院議員、米村猛経済産業省近畿経済産業局長、大

66年間、一記者の姿勢忘れず

河内新聞社 小山博 社主 逝去

河内新聞社の小山博社主（写真）が10月5日に逝去した。享年88。6年前に肺がんを手術し順調に回復したが、今年に入り体調を崩すことが多かった。約1カ月前に入院し療養していたが、帰らぬ人となった。

昭和7年に香川県坂出市で生まれた小山社主は近畿大学法学部へ進学。卒業後、東大阪新聞社へ入る。その後、河内新聞社へ移り、2代目社主に就任。66年間、一記者の姿勢を忘れず取材に東奔西走した。

葬儀は10月8日に親族で営んだ。喪主は長男の小山博一さん。

風を読む 22

2020年 世界の動き

大阪商業大学総合経営学部教授
経済学博士 中津孝司

在宅勤務とオンライン授業

緊急事態宣言の発出を契機として、日本社会は一斉に危機回避モードに転換した。市民は自宅に引きこもり、街からは人影が消えた。百貨店をはじめ、小売り店舗はシャッターを下ろした。仕事場はオフィスから自宅へと移り、パソコンと睨み合う日々が続いた。

在宅勤務は通勤時間を節約でき、仕事と育児や介護を両立させやすい。その一方で、職場内でのコミュニケーションが途絶え、プライベートと仕事が混同してしまう。と同時に、業種間の格差も明らかとなった。

情報・通信分野や金融・保険業界では円滑に在宅勤務が導入、浸透する一方で、運輸や建設、宿泊・飲食部門の在宅勤務は難しい。また、企業は今、オフィス面積の縮小を急ぎ、オフィスの地方分散化も模索する。メリットとデメリットとを天秤にかけて、最適な組み合わせを試行錯誤する。

ご多分に洩れず、「象牙の塔」と揶揄される大学の世界もオンライン授業を余儀なくされた。キャンパスへの立ち入りが禁止されたことで、教員も学生も自宅でそれぞれの課題に取り組んだ。

勤務先ではゴールデン・ウィーク（GW）ルが週4本、講義が週2本。受講生は合計で250人を突破する。毎週、250本以上のレポートに目を通し、コメントを書いて返信する作業は思いのほか大変だった。

学生には文字数や内容を制約せずに、自由に意見や感想を書かせた。それを丁寧に読み込むと、学生が課題文を真剣に読み、独創的なレポートに仕上げていることを実感できた。なかにはリズム感満載のオリジナリティー溢れる文章を展開するレポートもあった。

学生のレポートに刺激されて、コメント書きにも熱が入る。学生もコメントを読んで、より一層熱心にレポートを書くようになった。コメント書きもさらにヒートアップ、熱がこもる。

もちろん、オンライン授業の不平不満を打ち明けるレポートも散見される。大学の施設を利用できないのに、一体なぜ、施設費を納入しなければならないのか。レポートを送っても担当教員から反応がない。「テキストを読め」としか指示しない教員もいるらしい。怠慢な教員は学生から見放される。

勤務先は私立の教育機関である。授業料や入学試験検定料は学校法人の理事会が決定する。大学教授会の審議事項ではない。教員は学校法人の一員ではあるが、理事会のメンバーではない。理不尽なもどかしさを感じながら、学生のレポートに対するコメントでは弁解するより方法は見つからなかった。ただ、後期の授業は対面方式に戻る（厳密に言うと、対面とオンラインのハイブリッド型）。最初の授業では大学経営について講義する予定である。

晴耕雨読

町の本屋さんを応援

町の商店がなくなっていく。月刊誌や予約本を配達してくれていた町の本屋さんが廃業して久しい。コロナ禍、ターミナルに出る機会がなく大型書店とも疎遠になった。

今春から、駅前の小さな書店で取り寄せをお願いしている。コロナ禍で「リモート」が普及し、可処分時間が増えているので本の売れ行きを聞くと、女店主は「下げ止まった」という。40年来の町の本屋さんを応援することにした。

ぴったりの本だと藤原正彦著「本屋を守れ～読書とは国力」（PHP新書）を薦めた。月に1冊も本を読まない中高大生、新聞や文庫本も読まず、スマホ依存症の大人たちを嘆く著者は「国語力なくして国力なし」「本屋こそ日本文化と精神の拠点」などを説く。

「町の書店がなぜ大切か」の中で「ネットの書籍流通に規制を加えて町の書店を救わねばならない」と提言。本が好きになりいろいろ読めば、「知識も教養も情緒もおのずと身に付きます」と読書の大事さを訴える。まだ、棚にあるので少し責任を感じた。

夫婦ともに在宅勤務、子どもはオンライン授業、騒ぐ幼児が一つ屋根で生活する「新常態」では家庭内の時間割とルールでマネージし、時には家族全員で読書タイムだ。

城山三郎氏は「静かに健やかに遠くまで」（新潮文庫）で①気まぐれ読書型（何でもないきっかけから読む）、②テーマを決めて集中豪雨型（執筆のため徹底的に読む）、③交流・交易型（読書会などでお互いに交流しあう）の3つの読書タイプを挙げているが、参考になる。

読書週間のマイ目標は「100歳までに読みたい100冊の本選び」。まずは、「ひとり燈（ともしび）のもとに文（ふみ）をひろげて、見ぬ世の人を友とするぞ、こよなう慰むわざなる」（徒然草第13段）。

2020・10・15

町工場を訪ねて 24

株式会社西尾商店

笑顔で仕事する福田俊信社長

部品や装置を次なる用途のため切断・粉砕

モノづくりの町・東大阪は様々な部品・装置類を作っているが、モノにはすべて生命・役割がある。部品や装置としての役割を終えたモノは、次なる用途のために切断・粉砕されて部品製造用の素材として生まれ変わり、加工メーカーに納入されている。

産業廃棄物取扱業者も様々に分類されるが、鉄くず（切粉）・鋳物加工くず（ザライ粉）・銅・アルミニウム・黄銅・ステンレスを主に取り扱う株式会社西尾商店（福田俊信社長）を訪問取材した。

1962年、新今里で非鉄スクラップ業、西尾商店を創業。1982年に株式会社に改組している。取扱品目はアルミニウム・黄銅・ステンレス・被膜銅線・モーター・廃棄バッテリー・廃棄基板など幅広い。月間の取り扱い量は、最盛期で600トンを超える。

町工場が密集する東大阪地区に拠点を構えている有利さで、アルミニウム合金や合金切粉を安定して調達できる地の利がある。

廃棄物の入荷は、地域の町工場をほぼ中心として解体業者・電気工事業者・同業者から毎日のように持ち込まれる。また一般家庭からの持ち込みにも対応しており、重量1キログラム以上から買い取っている。

2年前に中国が低品位スクラップの輸入を禁止した影響で、プラスチック付きや金属分の低いスクラップの販売先に苦慮している現状がある。同社は作業者による「手解体・手選別」を強みとしており、品質向上に役立てている。

スクラップの付加価値については、三方締めプレス機・アリゲーターシャーリング・仕分け選別付き缶プレス機・磁力選別機・携帯型レーザー金属判別機などを導入・駆使して、炉前材としての価値を高めている。

主要取引先である2次合金メーカーなどのスクラップユーザーの品質要求や検収条件が年々厳しさを増しており、更なる品質向上に努めている。

品質向上にかける意気込みは、町工場のQCD（品質・コスト・納期）に通ずるものがあると感じた。

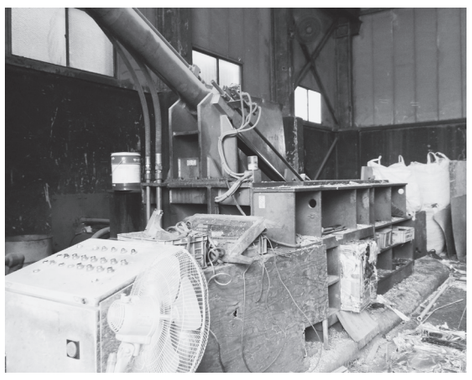
福田俊信社長に先行きの設備計画を聞いた。

「大型シュレッダー（1億円超）などがあれば効率は良いが、そこまで仕事量が期待できない」

モットーを聞いた。「基本的に笑いながら仕事をしたい」。そのココロは、笑門来福。若い人へのメッセージは「他人への思いやりを持つこと、自己中心はアウト！」。

またいずれお会いしたくなる、ユーモア溢れる社長だ。

（小川秀人）


三方締めプレス機

株式会社西尾商店
社長　福田俊信
東大阪市長田東4－3－33
TEL 06－6746-1073

えぇっ!?
環境活動して会社の業績UP??
ほんまかいな～
……もっちょい詳しく　TEL：072-991-8878
O-KES
特定非営利活動法人 グラウンドワーク八尾 大阪KES環境機構（O-KES）
詳しくはこちら→　http://www.gw-yao.com

自分史・社史出版のお手伝い
記憶は一代、記録は末代
地元八尾の出版社
だからこそできる
きめ細かな本作り
著者と編集者が二人三脚で本作り
株式会社 ドニエプル出版
TEL.072-926-5134
八尾市山本町南6-2-29
FAX.072-921-6893

ウエス販売
≪商品紹介≫
～色メリヤスウエス～（1ｋｇ￥350）
～混合ウエス～（1Ｋｇ￥200）
～タオルウエス～（1ｋｇ￥400）
～白メリヤスウエス～（1Ｋｇ￥500）
☆不用になった中古衣料やタオルから、ウエスに適した原料だけを選別加工し商品として仕上げました。障がいを持つ利用者が手作業で丁寧に裁断し、梱包をしています。地球に優しく、皆様に愛される商品を目指しています。
社会福祉法人ヤンググリーン
障害ワークセンター will
〒577－0023 東大阪市荒本1－4－32
TEL：06－6789－6171
FAX：06－6789－6172

お湯のいらない足湯　ゆっ太郎
持ち運びができて収納もコンパクト
株式会社 藤原電子工業
http://www.fdk-ltd.jp/
〒581-0042 八尾市南木の本二－一五一
TEL（〇七二）九九一－三九二七
FAX（〇七二）九九一－三九九六
fujiwara-denshi@nyc.odn.ne.jp

明るい・楽しい・アットホームな教習所
運転免許取るならＹＡＯＫＹＯで！
八尾自動車教習所
八尾市高安町南七丁目二十一番地
☎（072）999－1234
HP：http://www.yaokyo.net/

募集
電気主任技術者　電験3種取得者
大阪電気保安協同組合
八尾市太田3丁目217－11
TEL 072－949－3125

カット野菜スタッフ募集　誰でもできる簡単な作業
GF株式会社 平野工場
大阪市平野区長吉六反1－7－20
TEL 06－6707－8868

四国88カ所霊場の
お砂さすり場・踏み場
手では88カ所の霊場のお砂をさすっていただき、周囲を歩くことによって下に敷きつめてある88カ所のお砂を踏んでいただきます。
三野郷山 三寶興誠院
八尾市福万寺町南 6－2－3
TEL 072－922－3933
MOB 090－1020－2682

社会的養護（しゃかいてきようご）を家庭で！
社会的養護とは、事情があって親元で暮らせないか暮らすことがふさわしくない子どもを社会が代わって養育することです。
特別養子縁組里親（とくべつようしえんぐみさとおや）：パパとママが欲しいな…。
養育里親（よういくさとおや）：一緒に暮らしてくれる家族、できるかなぁ。
季節・週末里親（きせつ・しゅうまつさとおや）：時々、お泊りさせてね。
養子縁組してくれる里親さんを待ってます。
一定期間、子どもと暮らします。
施設による家庭生活体験事業です。（各地域により差があります）
10月は里親月間です
里親制度とは
様々な理由で親と暮らせない子どもたちを、家庭環境の下で養育することです。
日本では里親がまだまだ足りていません。
NPO法人日本こども支援協会（TEL 06-6767-1130）

街の販促広報屋
Small Light Design Office
チラシ　DM　ポスター　パンフレット　印刷物全般
各種デザインデータ制作含めお任せ下さい
〒579-8058　東大阪市神田町１番１号　中西ビル３階（近鉄瓢箪山駅前）
TEL . 072-920-4726（お問合せ）small-light-y@outlook.jp
詳しくは www.small-light.co/　スモールライトデザインオフィス　検索

牛滝温泉
四季まつり
（旧いよやかの郷）
自然の中に浮かぶ天空の露天風呂
新温泉開業
屋根付きテラスで
BBQ・宴会ができます
7月4日グランドオープン
ナトリウム－塩化物・炭酸水素泉、ラドン温泉
☎072－479－2641
大阪府岸和田市大沢町1156
泉質は炭酸水素泉

注目の歴史小説

江戸城無血開城に奔走した山岡鉄舟

海を渡る鉄の舟

鳥羽亮 著

双葉文庫　定価715円（税込み）

霧山文三郎（作家・古代史研究家）

荒海を渡る鉄の舟

江戸城無血開城に奔走した山岡鉄舟こと山岡鉄太郎の生涯を描いた歴史小説である。中学・高校と剣道に打ち込み、大学で剣道3段を取得した作者だからこそ、一刀正伝無刀流の開祖であって、剣・禅・書の達人である山岡鉄舟を、徹頭徹尾、剣の道を求める哲人としてリアルに描けたのである。他の多くの作品と共に、青春を剣道に打ち込んだ作家なら誰しもが経験する道場稽古に励んだ。父親が亡くなると家族は江戸に帰るが、小野家は兄が継いだので、鉄太郎は刃心流という槍術の山岡道場に入り浸る。その直後、道場主の山岡静山が突然亡くなったので静山の弟、高橋謙三郎（後の高橋泥舟）に頼まれ、静山の妹、英子を嫁にして山岡家に入った。

ペリーが来航し、翌年幕府が諸外国に開国すると、幕府に抗って尊皇攘夷を叫ぶ浪人たちが跋扈し、鉄太郎も一時期、清川八郎の浪士隊に仲間入りした。しかし清川が倒幕に傾くのを見て、幕臣の鉄太郎は清川と袂を別った。

1868年、鳥羽伏見で幕府が薩長軍に大敗すると、その責めを負って多くの幕閣が失脚するなか、修好条約批准のために渡米した幕臣一行の一員としての大任を終え、幕府海軍の創設に尽力してきた勝海舟が軍事責任者となった。海舟は徳川家の宗主慶喜と江戸の町を戦火から守ることに注力する。和平を望む慶喜に頼まれた高橋謙三郎に、鉄太郎は「慶喜からの使者」に任じられ、江戸城無血開城を期して、薩摩藩士の益満休之助と共に駿府に赴き、「西郷勝会談」の実現に向けて命を賭けることになった。

世は明治になって、鉄太郎は慶喜と共に駿府にいたが、深刻な問題は江戸から追放された何万もの幕臣たちの生活を、どこで誰がいかにして見てやるのかであった。そこでも人を活かそうとする鉄太郎が侠客清水次郎長の力を借りて大活躍するのである。

【著者紹介】鳥羽亮（とば・りょう）1946年埼玉県に生まれる。埼玉大学教育学部卒業。90年「剣の道殺人事件」で第36回江戸川乱歩賞を受賞。自らの剣道体験をもとに、「柳生十兵衛武芸録」「介錯人・野晒唐十郎」「はぐれ長屋の用心棒」などのシリーズで、剣豪小説の第1人者となる。「覇剣　武蔵と柳生兵庫助」「十三人の戦鬼」「剣豪たちの関ケ原」「江戸の風花」「上意討ち始末」「剣客春秋親子草　恋しのぶ」など、著作は300冊を超える。

chigusa コレクション

着物ドレスを纏うモデル（楽屋前で）

デザイナーの伊藤千草さん

和の輪で披露

和の輪（和の文化を守る会）が9月25日にフェニーチェ堺・小ホール（堺市堺区翁橋町2）で開かれた。日本舞踊、ゆかたショー、仕舞、薩摩琵琶、十二単舞踊、中国琵琶などが披露された。

クライマックスは、きものショー。モデルが「chigusaコレクション」を纏い舞台を華やかに歩いた。chigusaコレクションは八尾市在住のデザイナー伊藤千草さん（67）がデザインした着物ドレス。

着物をここまでエレガントにドレスへと変身させる技は誰にも真似できない。まさに和魂洋才の極みだ。

笑える税金教室 10

税理士　上西　知

年末調整の電子化が始まった

いよいよ年末調整の電子化が始まった。まず年末調整というのは、会社（個人事業者含む）で働いている社員さんは給料をもらいます。その給料の税金の計算は会社で行うことになっています。勤めたことがある人は誰しも経験されたことがあると思いますが、年末になると会社から用紙が配られて、だいたい税金が還付されます。その一大事業が年末調整です。なにが面倒かというと、期限までに社員さんが出してくれない。出したとしても、書類が足りていない。意味が分からない。間に合わないので督促をする…。実はこんなことが一番大変だったりします。

今回、電子化になるところは、生命保険料の控除証明書などを通常、紙で会社に提出しているものが、データで提出することができるようになるというところです。

方法は2つ。1つ目は各保険会社から控除証明書を取得して、それを会社に提出する。私もまだ見ておりませんので、どんなものなのか分かりませんが、普通に印刷もできるようで、さらには国税庁が公開している年末調整ソフトを使うと年末調整の申告書に記載してデータ化できるようです。

2つ目はマイナポータルサイトから取得する方法です。

今回コロナ給付金の関係でマイナンバー申請が増えているようですが、マイナンバーカードをカードリーダーでパソコンに接続し、ポータルサイトに入ります。マイナポータルから保険会社や銀行、税務署などへのデータですが、そこから来る案内などはインターネット上のポスト（民間送達サービス）を用意して、そこにまずはデータが来て、そことマイナポータルとをつなぐ作業が必要です。

データの取得後は国税庁の年末調整ソフトを使うところは同じです。実施にあたっては、まず会社から税務署に届け出が必要なのでご注意ください。

楽になれば良いのだけれど…。

コロナ禍で話題の本

編集委員　石河亮平

緊急復刊　1990年初版　新型コロナウイルスを予言!?

闇の眼

ディーン・R・クーンツ 著

松本みどり 訳

光文社文庫　定価1,078円（税込み）

新型コロナウイルスのパンデミック（世界的大流行）のなか、トランプ米大統領は新型コロナウイルスに感染、入院治療を受け退院した（日本時間10月6日朝）。10月15日のテレビ討論では自らの強さを誇示し、米国の医療技術の優秀さを絶賛するだろうが政治的利用だとの攻撃は必至だ。米国では約750万人が感染し約21万人が死亡（10月6日現在ジョンズ・ホプキンズ大）。トランプ大統領は新型コロナの発生源は「武漢ウイルス研究所」と人工ウイルス説を主張、対してWHOは「発生源は自然界だ」と反論し、中国はトランプ氏に証拠を示せと迫っている。

自然界由来ウイルスを変異させてひそかに細菌生物兵器が製造されていても不思議ではない。極秘といえども偶然であろうとなかろうと、どこかから漏れるものだ。だから創作の対象にもなりえるし、警世の書にもなりうる。また「話題の本」にもなる。

コロナ禍のなか、緊急復刊されたのは鋭い判断だ。まず、1981年に原著が刊行され1990年に日本語版が光文社文庫から発行された。その後、著者が一部改稿したとはいえ30年前の作品は新鮮だ。次に、著者は「大ベストセラー作家」である。1945年米国ペンシルバニア州生まれ。68年、高校の英語教師時代に執筆した長編SF「スター・クエスト」でプロ作家としてデビュー。以来、「ウィスパーズ」「ファントム」など数多くのベストセラー作品を発表。さらに、次々とテンポよく現れるエピソードのアイデアは長編を飽かさずに引っ張る。その熱量に圧倒される。また、全編はミステリー調でもあり、ホラーの要素もたっぷり、サスペンス仕立てでもありサイエンス・フィクションでもある。底なしの渓谷の淵に立ちティナの名を呼んでいた。ダニーが生きている夢を見たのだ。

このところ、ちょっとしたものにびくつきやすくなっていて、そのたびにピストルをとって部屋中を調べるが誰もいない。「どしん！」何かが倒れたのか、聞き耳を立てた。「確かに、誰かがこの家にいるのだ」と耳を澄ませる。「警察を呼ぼうか、いや冗談の種にされるなど真っ平だ」。家の中を探してみようと「ピストルを天井に向け弾丸を一つ薬室に送り込んだ」。

侵入者はいなかった。ダニーの部屋は「もう1年前に葬儀が済んだのに、いまだにダニーのものを処分しないでいる」。絵をかくのが好きだったダニーのイーゼルが倒れていた。「さっきの音はこれだったのだ。だが、何がイーゼルをひっくり返したのだろう？」と足元に散らばったゲームの駒を拾い集め、もう一度イーゼルの黒板を振り返ると「シンデハ　イナイ」と書きなぐられていた。パソコンには「サムイシ　イタイ　ママ？　キコエル？」「ココカラダシテ」の文字が…。

さて、題名の「闇の眼」は会話の中の一言である。助っ人になった弁護士の恋人エリオットと2人でレストランの駐車場で交わした言葉だ。「誰かが、何かが二人を見張っている…人間である必要はない。ただ―何か―不気味で―奇妙なもの」「まるで夜そのものが私たちを見張っているみたい…夜、影、闇の眼ね」。

巧みにその不可解な場に誘われてきた読者のアナタならどうするだろうか。そして、難を逃れて一段落、ホッと息を抜いたところに、またもや信じられない光景の中に誘われ…。「どうする？」と自問しながら先へ先へと読み進めていくが、もう止まらない。

女性訳者の文章はやわらかくやさしい。タイミングのよい豊かなエピソード満載で読みやすく読み応えがある。ホラー満喫度120％以上、秋の夜長にふさわしい書だ。

広域 究極の金平糖

緑寿庵清水

口内に広がる品のある甘さ。コロナ禍で沈んでいた気持ちがにわかに晴れた。魔法にかかったような不思議な感覚に浸る。金平糖の持つ力に記者は驚いた。

弘化4年（1847年）創業の緑寿庵清水が作る金平糖はお菓子を超えている。まさに究極の金平糖だ。金平糖作りにレシピはなく、熟練職人の経験と勘しかない。気温や天候、釜の角度や温度を確認しつつ、釜の中で転がる金平糖の音に耳を澄ませて作る。どんなにAIやロボット が進んでも、絶対に真似できない職人技だ。

究極の金平糖の前に立つ若女将、清水珠代さん

ニー・モンラッシェ・ヴァンブラン（白ワイン）、ブランデー、梅酒、日本酒、ヴォーヌ・ロマネヴァン・ルージュ（赤ワイン）などの金平糖を作っている。さらに、季節限定の金平糖、歳時限定の金平糖、茶道専用の金平糖など、4代目・清水誠一さんと5代目・清水泰博さんが力を合わせ60種類以上の金平糖を作り出している。

インターネット販売はしていないが、本店の他に祇園店と銀座店がある。白一色の内装で幻想的。歴史を感じさせる本店とはまった く趣が違い、対照的だ。

緑寿庵清水

京都市左京区吉田泉殿町38-2
TEL 075-771-0755
営業時間　10時～17時
定休日　水曜日（祝日は営業）

東大阪の古代史研究家 十帖田の古代史塾 ㉛

百人一首殺人事件 ㉙

「江夏豊って知らないわ。それが事件とどう関係があるの」

恬子はそう言いながら28の意味を思いついてしまった。分かってみると何でもない。一生懸命考えている成平を見ておかしくなって吹いてしまった。

「私思い出したわ。これって本数よ。今年になって大伴さんがいれたボトルの数よ」

7月25日までにほぼ28本のウイスキーを空けたことになる。1カ月に4本、つまり1週間に1本のペースだ。弱いように見えて大伴は結構大酒飲みなのだ。分かってみれば何でもない。ただ戸田の7月25日の謎は依然残ったままだ。これも気になる。それ以外にも恬子はもう1つ別のことが頭に浮かんだがすぐに打ち消した。それは今日のドライブで成平が大村神社までの一度も道を間違わなかったことなのだ。昔、男性に誘われてドライブしたとき道を間違ってばかりいたのと比べてすごく安心していられた。しかし以前一度ここへ来たことがあるのではとふと思ってしまった。そう考えると、大村神社の手前の郵便局で一度だけ道を聞いたのまで何かわざとらしく思えてしまう。しかしそう考えたのは一瞬だった。

店にあるウイスキーのボトルで恬子は薄い水割りを作った。そして冷蔵庫からチーズを取り出しそれを手際よく皿に盛りつけた。グラスを傾けながら恬子が声を掛ける。

「今日は遠くまでお疲れ様」

ママが殺された現場を見られて何か心のつかえのようなものが取れたようだ。恬子がシュガーソウルが好きなことを成平が覚えていてくれたことも、持統天皇と赤人の歌が百人一首と万葉集で違っているのを、彼が並び替えて答えらしきものを見付けたことにも驚いているのだ。それに成平が思っていた以上に正義感があって頼りがいがあることに気付き始めている自分が嬉しかった。ただそれと平行して、真面目で堅物だとばかり思っていた成平の女好きそうな部分も見えてきていることが多少心配ではあった。

今日はやたらとお酒が進む。もう1杯飲んでからタクシーを呼ぼう。恬子はそう思った。そうしたら成平は送ると言うに決っている。そのときどうしよう。送られたら彼を自分のマンションに入れようか、それとも…。そんなことをぼんやり考えていた。

数日後のことだ。すべてが行き詰まっているように思えた事件が思いがけない展開を見せる。大伴が殺されたのだ。場所は京都市山科区小野御霊町の隋心院だ。小野小町が晩年この地で過ごしたという伝承があり小町の歌碑も建っている。伏見区深草墨染町の欣浄寺（ごんじょうじ）から、彼女に恋した深草少将が99日通ったという100日通い伝承の場所でもあるらしい。

大伴は隋心院でサバイバルナイフにより首を刺されていた。当時かなり酒を飲んでいたようだ。ナイフには特徴のあるバンダナが巻かれていた。そして地面には指で書かれたようなダイイングメッセージTが残されていた。Tの字が付く大伴が殺され、そこにTの字が残されているとすれば、犯人は富田か戸田に絞られてくるはずなのだ。あとは証拠になるようなものは残されていなかったらしいのだが、大伴のポケットには彼らしく文庫本が1冊入っていた。古本らしいのだが、田辺聖子さんの「源氏がたり（一）」だった。しかしこれが何かの手掛かりになるとも思えない。

ドクター、寄り道世界一周 ㉝

1ドル360円時代

久志本　東

コロッセオの近くには、あの有名なコンスタンティヌス大帝（在位三〇六～三三七年）の凱旋門があります。大帝といわれる皇帝には、彼の他にテオドシウス大帝（ローマの再統一とキリスト教の国教化）とユスティニアヌス大帝（ローマの再征服と教会分裂を終わらせハギア・ソフィア再建）がいますが、ローマを強大にするだけでなく、同時にキリスト教を保護したことが大帝という名称の意味するところです。いかに立派な皇帝でも、キリスト教を保護しない皇帝は大帝とは呼ばれません。たとえば乱れていた広大なローマ帝国の統治に成功したディオクレティアヌスは、皇帝としてはとても有能でしたが、キリスト教を迫害したため大帝とは呼ばれていません。彼がその父親を引き立てたコンスタンティヌスは往時のごとく広い領土を支配すると同時に、キリスト教を認めた偉大な皇帝だということです。側にあるコロッセオがあまりに大きいので、凱旋門は比較的小さく見えます。でも高さは二十五メートルと結構立派なもので保存状態も素晴らしく、一見の価値はあります。これは紀元三一二年、対抗馬マクセンティウスを破った彼に、ローマの元老院と市民が献じたものです。その頃の日本ではようやく古墳時代に入った頃ですが、まだ仁徳陵（大山古墳）のような巨大古墳は建造されていません。ただこの凱旋門を飾るのに使われた多くの彫刻は、他の建物から取って来たものであることが分かっています。中には門そのものも既存の凱旋門を借用したという説もあるそうです。

イタリア編

凱旋門

イラスト　久志本雅子

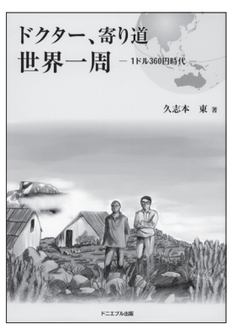
彼は東方のビザンティウムに都を移し、キリスト教を公認します。その地がコンスタンティノープルです。彼はまた、カリグラとネロの戦車競技場があるローマのヴァティカヌス丘にサン・ピエトロ大聖堂を建設し、ローマ市内にも徐々に教会を建てていくようになります。キリスト教の勢力は、このようにゆっくりとそして確実に増えていき、現在のように無数のキリスト教教会が見られるようになっていったのです。

フォロロマーノも歩きましたが、詳しい知識がなかったため、半壊全壊した建物が重層して無秩序に建っているだけで、何を見ているのかよく分かりませんでした。

そこはローマ市の中心を占める広大な遺跡で、古代ローマの歴史がぎっしり詰まっています。最近古代ローマの本をたくさん読んだので、また行く機会があればもっと面白いのではと思います。聖なる丘カピトリーノの東側の裾に広がる政治、宗教の中心地で、多くの建物が建てられています。聖なる道（ヴィア・サクラ）を中心にしたくさんのバシリカや神殿、祭壇、柱廊、記念柱、倉庫、凱旋門があり、その上にカトリックの教会など比較的新しい建造物などが重なっています。

（つづく）

久志本　東著
ドクター、寄り道世界一周
1ドル360円時代
ドニエプル出版



大学を卒業しインターン、そして一般外科研修の後ザンビア共和国の診療所へ赴任。 1ドル360円の超円安の中、持ち出し限度額の2万円を持って日本を飛び立つ。 その後、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカを放浪して大阪万博に沸く日本に帰国。 70歳を記念して寄った先々でのエピソードを綴り、上梓。イラストは久志本雅子。
A5判188頁並製本、定価：本体1,650円（税込み）

ドクターがつまみ食いしたユーラシアの古代史㊤
ドクターがつまみ食いしたユーラシアの古代史㊥
ドクターがつまみ食いしたユーラシアの古代史㊦
各A5判並製本、定価：本体 1,650円（税込み）
㊦のみ定価：1,870円（税込み）

「BLACK HIBISCUS」刊行プロジェクト 作家 丸山健二氏の文学革命

ドニエプル出版・東大阪新聞社 社長　小野元裕

「BLACK HIBISCUS（ブラック・ハイビスカス）」刊行プロジェクトを9月25日付毎日新聞で知り、熱いものがこみ上げた。編集者としてしたいと思っていた理想の出版を作家丸山健二氏（76）が手掛けたのだ。

いぬわし書房という出版社を立ち上げ、4巻2472ページの大長編「BLACK HIBISCUS」を予約出版で出す。装丁にもこだわり、上製本で表紙は山羊革だ。1セット10万円、50人の読者を求めるという。文学の世界、出版の世界に風穴を開けた。

「…私は、不特定多数の安直な読者ではなく、あくまで特定少数の、眼力あふれて感性に優れた、読み手としての才能に恵まれた読者に向けての発表の場を、とうとう設けるに至った」と丸山氏はいぬわし書房のホームページに書いている。

学生時代に私は「千日の瑠璃」という丸山氏の小説を読み、度肝を抜かれた。それ以来、丸山氏のことがずっと頭にある。再会したのは2017年5月27日付朝日新聞「作家の口福」欄だ。「文学は生きている」と題した丸山氏の随筆が胸に刺さり、同時に励まされた。

「BLACK HIBISCUS」刊行プロジェクトは、文学を本来の姿に戻すための文学革命に他ならない。

連載小説㉔

近八尾行進曲

嶋津　亮太（八尾市在住の小説家）

目の前には見覚えのある顔が2つ、俺のことを見下ろしていた。

一瞬、それが何なんかよく分からなかった。

「ミツル」

その顔は名前を呼んだ。「ミツル」そう、それは俺の名前だった。

声のする方に視線を移す。

「あ、起きた。ミツル、大丈夫？ ミツル」

そうだ、この顔は俺の母親だ。起きようとすると頭の奥に衝撃が走った。

「いて、いてて」

「目、覚ました。先生に言ってくる」

もう一人の方の男は俺に背中を向けて歩きだした。それは紛れもなく俺の父親だった。

「あんた大丈夫か？」

母は俺の頭にゆっくりと手のひらを置いた。普段ならすぐに払いのけるのだが、頭が痛くて動けない。母の手に込められた体温はゆっくりと伝わってきた。穏やかな気分になり、不思議と痛みがやわらいだ。息を吐く。なぜ両親が目の前にいるのだろう。そしてここは一体どこなのだろう。奥から一定の波のように響く鈍痛の中で俺は考えようとしたが、うまく頭が回らなかった。最後の記憶を辿ってみたが、何をしていたのかさえ覚えていない。

がちゃり。扉の開く音がする。頭を持ち上げるのは困難なので、首をひねり視線をやった。そこには圭太君がいた。

「大丈夫か？」

色が白く背の低いその男は俺に向かってそう言った。

その瞬間、あらゆる場面が津波のように押し寄せてきて、俺は吐きそうになった。ずきずきずきき。頭が痛む。たくさんの映像が一瞬にして溢れ返る。情報量が多すぎて、処理が追いつかない。電飾に煌いた近八尾風景。扉を開けた時の賑やかな音楽。棚に並ぶ数々の酒。ライトを浴びたカンパリ。目の前のショットグラス。俺の名前を呼ぶたくさんの口。胸の谷間。煙草の吸殻。グラスの破片。

「いた、いたたた」

頭が痛む。

「あんた、大丈夫か？」

聞きなれた母親の声。その色は不安を帯びている。そうだった、母はいつも俺のことをこうやって心配した。

がちゃり。もう一度扉の開く音がして、足音が俺の方に近づいてきた。薄っすらと目を開けると白衣で眼鏡をかけた男が立って俺を見下ろしている。

「はい、痛みますね」

男はただそう言った。

「先生、ミツルがさっきから痛いって言ってるんですけど」

母の声がする。眉を八の字に曲げて目を見開いている顔が瞼の裏に浮かんだ。少し腹が立った。

「どこが痛いですか？」

「さっき目を覚ましたんですけど、それから痛い、痛いってずっと言ってるんですけど、大丈夫ですか？　ミツルは助かりますか？」

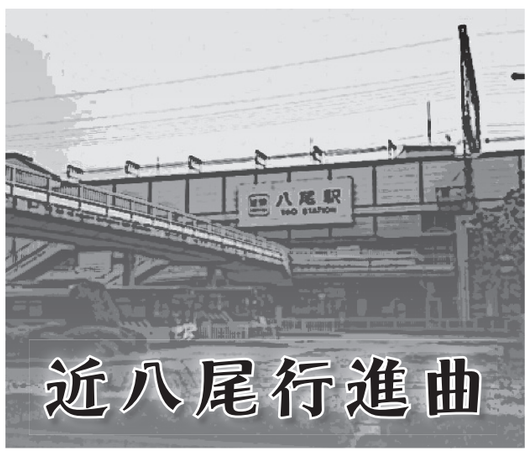
「頭ですか？　体ですか？」

「本当にさっき目を覚ましたばっかりなんです。でもすぐに痛いって。脳でも切れたやないかって思うんですけど大丈夫ですか？」

「言葉にできなかったら、楽な方の手で痛い部分を指で押さえてください」

「ミツルは強いんです。小さい頃から大きな怪我だってしたことがありません！　だから初めて痛いということに戸惑っていると思うんです。先生、ミツルを助けてください！」

うっさい、ばばぁ。喋んな。俺は心の中で叫んだ。白衣の男は見事なまでに母の声を受け流している。受け流すというよりも無視だ。



「…頭」

微かな声。それは久々に聞いた自分の声だった。

「頭が痛いですね。大丈夫です。動かないでください」

そう言って、俺のこめかみの部分に手を置いた。

「それでは目を開けてください」

俺は目を見開いた。

「ミツル！　頑張りや！　ミツル！」

男の奥から母親がけたたましく叫ぶ。その甲高い声が頭に響いて痛かった。

光を当てて白衣の男は俺の眼球を調べた。上を向いたり、下を向いたり。光は眩しかった。

「大丈夫だとは思います。おそらく二日酔いでしょう」

男はそう言った。

「ほんまですか？　ちゃんと調べてください、先生！　ミツルが苦しんでます。ちゃんと調べてください！」

母は白衣を掴んでそう言った。その姿を見て、反射的に俺は声を出した。

「大丈夫、大丈夫、大丈夫やって！」

不思議と痛みは感じなかった。母は目を丸くしてこちらを見ていた。

「ミツル！　あんた大丈夫か？　痛かったなぁ！　痛かったなぁ！」

「大丈夫やから黙っとけや！」

そうだ、俺は近八尾のバーの周年パーティーに行ったのだ。そこで酒を飲み過ぎた。ここはきっと病院で、どういうわけか俺はここに運ばれてきた。

きっと何か、分からないけど、大きな何かをしでかしてしまったに違いない。

「すぐに帰ってもらっても大丈夫ですが、落着くまで寝ていて下さい」

先生は何にも興味なさそうに淡々とそう言った。

「先生、ミツル本当に大丈夫ですかね？　ミツルはもう大丈夫ですかね？」

「大丈夫だとは思います」

小さな声で母親を軽くあしらい、足早に部屋を出て行った。

母は扉に向かってしばらく頭を下げていた。

「大丈夫か？」

すぐ近くで声が聞こえる。見上げると父の姿があった。

「酒に酔って階段からこけたらしいな」

え？　そうか、俺は階段からこけたのか。

「彼が救急車を呼んでくれたらしいわ」

父の視線の先には圭太君がいた。呆然とした表情でこちらを見ていた。蛍光灯の下で見る圭太君は奇妙なほどに顔色が白かった。ただの飲み過ぎかもしれない。

「これに懲りたら、酒は控えろよ」

父はそう言った。その偉そうな言葉に腹が立った。何もかも知った風に俺をたしなめやがって。

「ミツル、大丈夫か？　起きれるか？」

母が慌ててベッドサイドに飛んできた。声が大きいし、バタつくし、いらいらする。

「ちょっと体起こしてみ」

そう言って背中に右手を差し込んで持ち上げようとする。体を触られるのが癪だったので急いで起き上がろうとすると、

「あかん、あかん！　ゆっくりせな！　まだ起き上がられへんわ。寝とき、寝とき！」

そう言って俺の両肩をベッドに押さえつけた。

「どっちやねん！」

あぁ、腹が立つ。意識がはっきりとしてきたのか、急に病室は賑やかになった。そうか、俺は病院に運ばれたのか。

次号（11月15日付）に続く

近八尾行進曲

坂町スケッチ ④

塩味の蛸焼きが絶妙と大評判！

蛸焼依屋文左衛門（たこやきよりやぶんざえもん）

いつも元気な大平我路さん

かつて大阪に大平シローという名人漫才師がいた。しゃべくりは言うまでもなく、歌も玄人はだしの人気者だった。

人気絶頂の頃、所属していた吉本興業を離れて花の都東京へ打って出た。そのまま月にも届く勢いが続けばよかったが、人生思うようには回らない。東京の舞台で大成功とはならず、大阪へ舞い戻り人生の節目と考え、芸人の世界と決別し実業の道へ進んだ。

立ち呑み屋はじめ様々な店を立ち上げた。2005年、相合橋筋に「蛸焼依屋文左衛門」を開店、シローの最後の弟子である大平我路さん（42）が店長に。2012年にシローが逝去し、そのまま店は我路さんが引き継いで営業している。

シロー師匠の思い出を聞くと、「とても厳しくて、とても優しい師匠でした」としみじみ語る。

メニューは、ドリンク類（生ビール・酎ハイ・ハイボール）500円、売りもんの蛸焼きは6コ300円、12コ500円。味付けは、しょうゆ・ソース・ゆず・塩味…と多種多彩だ。塩味が絶妙と大評判。

我路さんは京都市東山の出身、YouTube「大平我路」が絶賛放映中であり、ラジオ関西・サンテレビ等のレポーターなどでも活躍している。

モットーを聞くと「人畜無害で、生涯芸人」。若い人へのメッセージは「自分の納得のいく人生を歩んで欲しい」。

相合橋筋路面店の絶好のロケーション、今日も元気に蛸焼き・ビールで乾杯！

（小川秀人）

蛸焼依屋文左衛門
大阪市中央区千日前１－８－24
TEL090－9871－7314
営業時間：19時～深夜１時
休日：なし

楽書楽読帳 ⑱

夢野悠人

下関白石邸で待つように

安政5年（1858年）の秋。斉彬の急死（7月）後、一橋慶喜派の大名や公家らを激しく弾圧する井伊直弼の恐怖政治は「安政の大獄」といわれ、下関や九州の地にも及びます。

月照を追って幕府の捕吏と地元の目明しが「忍向という坊さんが来たはずだ」「僧を伴った2、3人が来たことは確かだが、すぐに出発したらしいと適当にあしらい、薩摩の手土産を渡して早々に帰ってもらう」と「白石正一郎日記」は書いています（古川薫著「維新の商人」毎日新聞出版）。

10月2日、白石邸に1泊し翌日に出発した月照らは11月11日の朝、西郷家にたどり着きます。紆余曲折あった危険な逃避行を語る月照、西郷もまた斉彬亡き後の藩の著しい変貌に失望したことなどを語ります。「もうこれまでか」、以心伝心というものです。

錦江湾の悲劇について、正一郎から数えて6代目の白石資朗氏（日記を現代語訳）は「12月12日、月照の逃走に手を貸したため、筑前に亡命中の平野次郎が訪れ泊まった」と記しています。それだけですが、白石正一郎に投身・救助の一部始終を報告したでしょう。

西郷は、溺死とされ墓も作られて、菊池源吾と改名、奄美大島での潜居を命じられ、安政6年（1859年）1月12日奄美大島北部の龍郷に着きます。愛加那との生活…。時は流れて西郷に再び大役が…。

「文久2（1862）年3月19日、大嶋三右衛門の名で西郷吉之助（隆盛）が久ぶりに正一郎の日記に登場する。正一郎とは安政4年いらいの再会だったが、久闊（きゅうかつ）を叙するひまもなく、西郷は急に思いつめた顔になり、あわてて大坂へ向かった」（「維新の商人」）ので白石との再会ならずです。

久光上洛に際して奄美大島から呼び返された西郷が「無位無官のお方が突然上洛されて何ができましょうや」と言い放った「じごろ（田舎者）」発言で怒り心頭の久光。

西郷は上洛する久光から「下関で待つように」と命じらていましたが関白・九条尚忠らの殺害計画を聞き、「のんびりと主君を待っている時ではない、過激派の暴発を抑えねば」と飛び出したのです。

いくら何でも西郷が久光に何ら連絡もしない無礼は考えられないと、海音寺潮五郎は自著「史伝西郷隆盛（一）」（文春文庫）で大久保利通の「握りつぶし」を示唆。謎や不思議さを読み解き想像する面白さは読書を深めます。

怒り冷めやらぬ久光は奄美大島から戻ってわずか4カ月の西郷を再び島流しに。今度は罪人として徳之島へ。

フェリーから見る徳之島

寄稿

グレンコ・アンドリー氏の講演を聞いて

ロシアに抱く甘い幻想

フリーライター　田中　敦

評論家グレンコ・アンドリー氏（32）＝写真＝が3冊目の本「日本を取り巻く無法国家のあしらい方」を育鵬社から出版した。これを記念して、9月22日に大阪市立総合生涯学習センター・第1研修室（大阪市北区梅田1）で講演会が開かれた。主催は日本ウクライナ文化交流協会。

参加したフリーライターの田中淳氏（32）が原稿を寄せた。

熱弁を振るうグレンコ・アンドリー氏

近年ようやく日本人の国民的コンセンサスとして「中国脅威論」が定着しつつあるなか、なぜか「ロシア脅威論」とでもいうべき論調が保守系の人びとからもほぼ聞こえてこないのは、ロシアに対する危機感の希薄さの表れではないか。それどころかロシアに対して「中韓と違いロシアは親日国だろうから仲良くしたほうが良い」「北方領土は2島返還や面積2等分でも良いから早期に日ロ平和条約を締結せねば」「ロシアを中国包囲網に取り込むべき」などといったロシアに甘い幻想を抱いている論調、そして実際にロシアの本質が剥き出しになったウクライナ侵攻・クリミア併呑を、あくまで対岸の火事と決め込んで傍観している日本人の多さにはほとほと失望させられる。

ロシアという国家は領土侵略のためならば自国民を殺戮し、隣国に侵攻してさらに多くの他国民を虐殺する血も涙もない生粋の侵略国家だということは歴史が証明している。

昭和20年8月9日以降、「日ソ中立条約」を一方的に破棄し満洲・樺太・千島を掠略したロシアにとって約束・条約は「破るためのもの」であるとするならば、日本も昭和31年の「日ソ共同宣言」などこちらから破棄してしまえばよい。居直り強盗ロシアとの友好など願い下げであり、和平条約締結など以ての外、というわけだ。日本はロシアに対して南千島四島のみならず、千島全島・南樺太そして延滞料としての北樺太を付帯しての全面一括返還を強面に主張し、その要求を突き付け続けるべきなのである。

さらに述べるならば、ソ連が崩壊して新しく民主国家ロシアという国に生まれ変わった、というのも日本人独特の幻想であり、ロシアは昔から今に至るまでロシアのままなのである。実際に英語圏ではソビエト連邦時代のロシアをRed Russiaと表現する。つまり本質的に膨張主義・侵略主義のロシアは一貫して変わりないということを欧米人はよく知っているのであろう。ロシア膨張主義・侵略主義の被害者である日本やウクライナといった諸国家が遠交近攻し、手を携えてロシアという世界の巨悪に正面を切って対峙し得る時代を我々は創り上げねばならない。

【追記】この度、かねてより私淑していたグレンコ・アンドリー先生の講演会に参加させていただいたことは、非常に光栄なことであり感謝いたします。

ソーシャルディスタンスをとって開かれた

小説

ひかり

中森　臨時（北河内在住の小説家）

教室の人だかりから幾筋もの光が出ていてまぶしい。近づくと田中が光っており、背中には翼が生えていた。

田中は「神様」になっていた。

「登校中にA神社の前を通った時、何か光った気がして。行ったら売ってた。即購入。超ラッキー」

「いくらだったの」

「2千円」小学生には大金だった。

「図工の教材費をちょっとね」

先生は教室に入ってくるなり、田中の背中の翼を大いに褒めた。その日は、田中から溢れる光でクラスに落ち着きがなかった。見かねた先生が「田中なんとかしろー」って笑いながら言うので、田中も「なんともできませーん」って笑いながらペカペカ光ってクラスじゅう爆笑。

学校が終わると、みんなお金を取りに一目散に帰宅した。僕は売れ行きが気になり、A神社に向かった。途中、立派な翼を生やして光る子どもたちとすれ違った。恍惚の表情だった。参道に着くと、行列が鳥居からはみ出ていた。僕は慌てて自宅に向かった。

母に金を無心したが、3年生には早すぎると却下された。兄の姿がないことを尋ねると、母は「お兄ちゃんは6年生だからね。クラスでまだなのは数人だし、仕方ないでしょ」と諦念していた。僕は怒りで陶器の貯金箱をぶっ壊し、600余円を持って神社に急いだ。

すでに人はおらず、本殿には「売り切れ」の張り紙があった。境内は大勢の人に踏み荒らされていた。日が暮れ、蓄光塗料の光のように淡く光るものが落ちていることに気がついた。翼から落ちた羽だった。それは田中の背に生えていた時のような神々しさはなく、まがい物のように見えた。

それでも僕は羽を持って帰ろうとポケットに押し込んだ。その時、ひとさし指の先から血が出た。羽の根本の硬い部分で切ったようだ。指先を咥えた後、傷を確認すると、指が光っていた。羽と同じまがい物の光だった。

翌日教室に着くと、クラスメートの3分の1がいなかった。田中もいなかった。先生が来て、「神様になった子は、みんな無事にいきました」と言った。うちの兄も、朝起きるといなかった。

ひとさし指の発光は止まり、黒く変色した。痛みはない。

記憶は一代、記録は末代
自分史・社史出版のお手伝い
地元八尾の出版社
だからこそできる
きめ細かな本作り

永続する会社には社史がある
著者と編集者が二人三脚で本作り
株式会社ドニエプル出版
TEL.072-926-5134
〒581-0013 八尾市山本町南6-2-29　FAX.072-921-6893
ドニエプル出版　検索

八尾柏原版

八尾柏原支社
八尾市山本町南6－2－29
TEL 072－926－5134
FAX 072－921－6893

ここで食べると他へいけなくなる

焼肉とイタリアンのコラボ

焼肉トラットリア西山　西山和典さん

物腰の柔らかい西山和典さん

西山和典さん（43）の〝肉愛〟を超える人を記者は知らない。

好きな〝肉〟に携わる仕事に就きたいと人生の方向を決めたのは大阪府立布施高等学校在学時だ。卒業後、友達の多くは大学へ進んだが、西山さんは迷わず姫路にある食肉問屋の株式会社ムラチク（現エスフーズ株式会社）に入り、食肉を一から学んだ。2年後、地元へ戻り、肉の森田屋瓢箪山店で働くことに。額田店出店に際し、店長となる。こうして森田屋で10年間修行を積む。

40歳のとき、西山さんは夢に描いていた独立を実現する。近鉄八尾駅徒歩約2分の場所に焼肉トラットリア西山を2017年6月にオープン。

ただの焼肉屋にはしたくなかった。焼肉に何かプラスしたい。考えた末に出た答えは、日本人に馴染みのあるカジュアルでいてお洒落なイタリアンをプラスすることだった。オープンまでの半年間、休みを利用して大阪市西区土佐堀にあるイタリアンレストラン「サリーレ」で学ぶ。

焼肉トラットリア西山はギトギトしたいわゆる焼肉屋とは違う。ワインの似合うお洒落な焼肉屋だ。コースを頼むと、まずイタリアンの前菜が出てくる。いざ実食。肉を焼きながら何か違う予感がした。口に入れて、その予感が的中。これまでに食べたことがない味わいのある肉だ。

国産黒毛和牛のみを使っている。地元のブランド牛「大阪ウメビーフ」を食べられるのは八尾で同店だけということだけあり。さっぱりとした脂で口当たりがいい。

ここで食べてしまうと、他の焼肉屋へは行けなくなる。

焼肉にイタリアンをプラスして

焼肉トラットリア西山

住　所	八尾市本町 7―2―4―2F
電　話	072―929―8429
営業時間	11:30 ～ 14:00、17:30 ～ 23:00
定 休 日	ランチ 日・月 ディナー 月（祝日は営業）

QR コード

第1446回 八尾ライオンズクラブ例会

腹話術楽しむ

9月23日に八尾商工会議所（八尾市清水町1）で開かれた八尾ライオンズクラブ（伊藤嘉宏会長）第1446回例会で、メンバーは腹話術を楽しんだ。演じたのは、大龍山安養寺（東大阪市四条町5―17）の坊守、瀧本千賀子さん（62）＝写真＝。人形のカツオ君と共にライオンズメンバーを楽しませた。

普段はカツオ君と一緒に介護施設や子育てサロンなどで演じている。すべてボランティア。

今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で出番がほとんどなかった瀧本さん。この日は久しぶりの出番で嬉しそうだった。

腹話術をする瀧本千賀子さん

荘子と語る　四

大阪府立大学名誉教授　大形　徹

胡蝶のイメージ（筆者作）

胡蝶の夢

昔、荘周は夢の中で胡蝶となった。ひらひらと舞い飛び、楽しくて楽しくて、自分が周だということを忘れていた。にわかにめざめると、やはり周である。周が夢で胡蝶となったのか、それとも胡蝶が夢で周となったのか分からない。けれども周と胡蝶とはかならず区別があるはずだ。これを「物化（物の変化）」というのだ。

江戸時代の京の画家、英一蝶に、午睡だろう、ごろりと寝転んでいる荘子の絵がある。うつらうつらしているうちに蝶になっていた。ところが、がばっと目覚めてみるともとの荘周である。だが、もしかしたら、自分は蝶であって周は蝶が夢を見ている姿ではないかという。これを「物化」と呼んでいる。

晋の郭象の注釈によれば、「化」は死生の変化である。古代の「夢」は眠っている間に魂が抜け出して、死者の魂など他の魂と出会うことである。蝶や蛍などは、ひらひらと飛ぶ魂の形象とされることが多い。郭象は、荘子は「死」を夢に胡蝶になるようなものと考えていたと、とらえている。なお、「周」は荘子の名とされるが、内篇ではここだけである。「周」は「めぐる」で、この話にあわせた仮の名ではないか。それは周と蝶の循環ひいては死生の変化を示唆している。

司馬遼太郎の「胡蝶の夢」では伊之助が「俺は、蝶だぞ」と叫ぶ。自分は蝶であり、人としての生は胡蝶の夢だととらえている。

近鉄文化サロン上本町で「荘子を読む」開講中

昼下がりのJazz Time

松井久院長が蓄音機の構造や歴史を説明

左から高原かなさん、速水佐保さん、松井久院長

ジャズの盛んな大阪のミナミ・キタでも、ジャズバーやライブハウスのクローズが続いている。ファンにとっては淋しいことだ。

近鉄奈良線八戸ノ里駅から徒歩5分の地にバー蓄音機がある。オーナーは店の2階にある松井歯科医院の松井久院長だ。

店名の通り松井院長は著名な蓄音機コレクターであり、好きが高じてジャズバーを開業。日曜・火曜の定休日以外は楽しいジャズライブを開演している。

9月25日、東大阪市文化創造館（東大阪市御厨南2）でジャズライブが開催された。バー蓄音機のライブに常連アーティストで出演している地元出身の高原かなさん（ボーカル）、奈良市出身の速水佐保さん（ピアノ）を中心に、「A列車で行こう」「イパネマの娘」等、参加者が聞きなれた楽曲が演奏された。

松井院長は手回しの蓄音機を持参して、蓄音機の構造や歴史を説明し、持参のSP盤レコードの音色を聞かせてくれた。

コロナ禍対応で、参加者50人限定のジャズライブだったが、楽しいひとときが過ごせた。（小川秀人）

バー 蓄音機

東大阪市下小阪５－６－５
八戸ノ里駅南側を東へ５分、スギ薬局前
TEL06-4307-0080

倫理を学ぶ女性たち 1

ご縁に恵まれ、感謝の日々

八尾市倫理法人会幹事 元木史子さん

コロナ禍のなか、倫理運動創始者の丸山俊雄（1892年～1951年）が研究と体験に基づいて体系づけた「純粋倫理」を学ぶ人が増えている。コロナを乗り越えるため、またコロナ後の世界を生き抜くために揺るぎない人生指針が求められているからだろう。

21世紀は女性の時代と言われる。そこで、純粋倫理を学び実践している女性を本紙では取り上げ紹介する。新シリーズ「倫理を学ぶ女性たち」。

1人目は八尾市倫理法人会（尾崎航平会長）で幹事を務める元木史子さん(52)＝写真＝。2018年秋、友人が八尾市倫理法人会の経営者モーニングセミナーで講話することになり、何気なく参加した。その時、「今の私はここで学ぶ必要がある。ここに呼ばれている」と直感した。

家庭と仕事で悩み、漠然とした不安があったのではと元木さんは振り返る。

この2年で大きく人生が変わったという。

「ご縁に恵まれ、感謝の日々を送っています」と透き通った笑顔で話す元木さんの周りには自然と人が集まり、倫理を学ぶ女子会を月1回のペースで開くようになった。

11月24日、朝6時30分～7時30分に志紀住宅会館（八尾市志紀町西3―8―1）で開かれる八尾市倫理法人会経営者モーニングセミナーで、元木さんは「美しく生きる」というテーマで2年間の倫理実践報告をする。参加費は無料。問い合わせは同会事務局（☎072―991―2345）へ。

宇宙旅行に持っていきたい１冊 8

宇宙空間を旅しながら読むのに適した本を紹介しています。宇宙旅行は夢物語ではなく、現実のものとなっています。いつかあなたも宇宙へ。１冊の本をお供にして。

ファンキー末吉 著「大陸ロック漂流記」

20代前半で読んだこの本書を40代となって再び読み返した。私が初めて北京の大地を踏んだのが1997年夏であった。その1年後に発売され、すぐに購入した。初めて読んだときも、今回再読しても、この本には、90年代のあの北京の臭いがする。政治と観光以外は何もなく、まだまだ汚く、不便だった街に思いを馳せながら熱きものを感じた。そして、1999年に再び私は北京の大地に足をつけた。

本書は、自身のバンド爆風スランプで大ヒットを飛ばしていたが、日本の芸能界に嫌気を指していたファンキー末吉氏が、あるきっかけで北京旅行をし、中国人ロックバンド黒豹と出会うところから始まる。多くの協力者とともに中国の大地で奔走し、音楽業界と飲食業界で大成功をつかむサクセスストーリーを描く。

氏の中国での業績は、これ以後も続くが、私の目には、閉塞していく東京を横目に日本を飛び出し、中国でビジネスを展開するビジネスマンに映る。そして今、カンボジアを拠点としている。

田辺寛（中華メタル研究家）

推薦図書を募集中！　東大阪新聞メールへ contact@higashiosaka-n.com

連載小説　ウクライナを歩く ―― 159

小野元裕

ベラルーシの民主化のために

「それはどういう意味ですか」

恐る恐る聞いてみた。歳を考えれば、断然こちらが上なので、そこまで低調な態度を取る必要はないのだが、無闇矢鱈に偉そうぶるのは好きではない。

キエフ大学の学生は、銀縁メガネのツルを持ってズレを直す。

「キエフ大学3回生のアンドリーと申します。お2人の見方が甘いので、つい口を挟みたくなりました。申し訳ありません」

そう言ってアンドリー青年は深々と頭を下げた。

どうやら礼儀をわきまえない不埒な若者ではないようだ。スベトラーナに目配せした。彼女は小さく右目をウインクして応える。私と同じように青年の話を聞きたがっている。

「では、聞きますが、私たちが甘いというのは、どういうことですか」

追随してスベトラーナは「教えてほしいわ」と笑みを浮かべた。

威厳を作ろうとしてか、青年は咳払いをしてからこちらに体を向けた。

「実は、僕の家にベラルーシ人が転がり込んできているのです」

話を聞くと、アンドリー青年の父親を頼って、ベラルーシ人の学者が妻と子ども連れてやって来たという。2人はキエフ大学で机を並べた同級生のようだ。子どもといってもアンドリー青年よりも4つほど年下で、ほぼ同年代。

この学者だけなく、多くのベラルーシ人がルカシェンコに恐れ戦いてウクライナやポーランド、ラトビアへ脱出しているという。このままでは、ルカシェンコの思う壺だ。後ろに構えるプーチンもほくそ笑んでいるに違いない。

とはいうものの、ベラルーシにはルカシェンコに立ち向かう勇敢な若者が残っている。ウクライナは彼らを後押しすべきだとアンドリー青年は力説する。

「今ルカシェンコを倒さなければ、ベラルーシに民主化はきません」

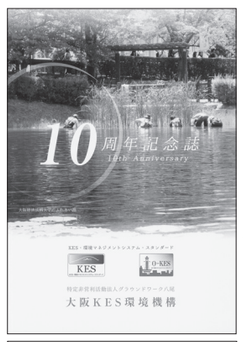
イベント情報

NPO法人グラウンドワーク八尾大阪KES環境機構

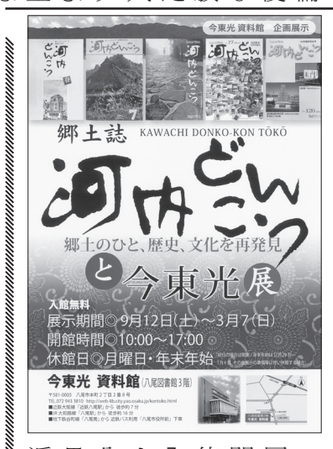
10周年を迎える

NPO法人グラウンドワーク八尾・大阪KES環境機構（梶田安彦代表理事）が8月25日に10周年を迎えた。環境の保全に関する事業や歴史文化遺産に関する事業を行うことにより、より多くの人に自然環境や歴史文化への関心を高めてもらい、環境の保全・文化の振興・子どもの健全な育成を重視した地域社会の形成に寄与することを目的とした団体。

8月21日に八尾市文化会館プリズムホールで記念式典を開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止せざるを得なくなった。そこで、記念誌（写真）を作成して関係者へ配り、10周年の節目を祝った。



大阪KES環境機構への問い合わせはTEL072―991―8878へ



河内どんこうと今東光展

郷土のひと、歴史、文化を再発見

展示期間：9月12日（土）～3月7日（日）
開会時間：10時～17時
休館日：月曜日・年末年始
入館無料

今東光資料館（八尾図書館3階）
八尾市本町2―2―8
TEL072―943―3810
近鉄大阪線八尾駅から徒歩1分

綾小路きみまろ
爆笑！スーパーライブ 2020
あれから 40 年～
中高年の皆様を笑いの渦に巻き込みます！
日　程　令和３年（2021年）１月24日（日）
14：00～開演（13：00開場）
会　場　八尾プリズムホール
参加費　S席 5,800円　A席 5,300円（※18歳未満は入場不可）
お問い合わせ　プリズムホールチケットカウンター
PRISM HALL 八尾市文化会館
チケットのお求め お問い合わせ　プリズムホールチケットカウンター ☎ 072-924-9999
プリズムホールウェブサイトチケット　http://prismhall.jp/

その加工あきらめないでください！
適性価格のお見積もりをお届けします！
KyoeiKagakuKogyo
アクリル加工の職人集団
共栄化学工業 株式会社
アクリル加工のことなら 年間3000以上件 新規お問い合わせ数
女性ばかりの「ママさん営業部」に今すぐご相談ください!!
TEL 072-922-1681 FAX 072-923-4879
〒581-0812 大阪府八尾市山賀町 4-63　http://kyoeikagaku.com
設備概要　加熱炉：加工最大サイズ 2400×1800ミリ
曲げ厚み限度：ポリカーボネート10ミリ、アクリル30ミリ
レーザー加工機：加工最大サイズ2000×1500ミリ
カット厚み限度：アクリル20ミリ

ペットちゃんの永代供養墓
美原東ロイヤルメモリアルパーク Familiar
年４回の合同供養会
合同供養墓　個別墓
どちらでもご供養可能
お気軽にご相談ください　わんにゃんにゃん　くよう
株式会社 関西メモワール
羽曳野店：〒583-0866　羽曳野市埴生野 1148-3
0120-1212-94 水曜定休